

期 4.25 四-5.21 回

※会期中、古美術作品に一部展示替えがあります。

〒150-0046東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL 03-3465-9421 http://shoto-museum.jp

今様 - 昔と今をつなぐ I M A Y Ō - Connecting Past and Present

『今様』とは今ではほとんど使われることのなくなった古い言葉ですが、もともとは「当世風」「現代的スタイル」 という意味です。つまり「新しい」という意味の「古い」言葉なのです。本展ではこの矛盾をはらんだ『今様』という この言葉をキーワードに、伝統技法に接点を持つ6名の現代アーティストを取り上げ、古くからの美術・工芸品から 彼らが何を受け継ぎ、自身の表現として昇華させているのかを探ります。

彼らが制作するのは、染織、絵画、陶芸、漆芸、木彫、金工の作品です。伝統的な技法や材質を創作に取り入れて いる点で「伝統主義者」と言えるかもしれません。しかし作品を見ると、日本の伝統の保存や再現へと向かうので はなく、むしろなじみ深いものを見たことのないものへと変容させようとしています。これこそ『今様』なのです。

作品の中にいかに現代的要素をはめ込むのか、そこに作家たちの機知やユーモアを見て取ることができます。そう して表れる伝統との差異は私たちに新鮮な感覚を与え、「伝統」とは何かを改めて問いかけてくるようです。



「蒔絵弁当箱」江戸時代、個人蔵

今回、現代美術作品約40件に加え、作品との関連性をより理解していただけるよう、イメージの元となった「本歌」である古美術作品約10件も 展示いたします。本展はハワイ大学マノア校日本美術史准教授のジョン・ショスタック氏の企画・監修のもと、日本側である当館と協働しながら 構成したものです。昔と今をつなぐ作品の共演もぜひお楽しみください。



石井 亨 (いしいとおる)

1981年静岡県生まれ。2014年東京藝術大学大学院美術研究科美術 専攻博士後期課程修了。現在、2015年度新進芸術家海外研修制度 研修員としてロンドンに在住。古典的な伝統技法の糸目友禅染を 現代美術に応用し、伝統工芸の革新と現代美術の刷新を試みる。

「美人画3」2016年、作家蔵



木村 了子 (きむらりょうこ)

1971年京都府生まれ。1997年東京藝術大学大学院修士課程壁画専 攻修了。伝統的な日本画の技法、様式を用い、現代の美男子たちを 「美人画」としてファンタジックに描く。現実の男性とは違ういわば 架空の「イケメン」という存在として、扇情的でありつつも客観的な 視点で表現している。

「男子楽園図屏風 East & West」East(左隻) 2011年、作家蔵

© KIMURA Ryoko / photo: MIYAJIMA Kei, Courtesy the artist



染谷 聡 (そめやさとし)

1983年東京都生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科 博士後期課程修了博士(美術)取得。漆という素材を多面的に捉え、 あそびという感性をもたせた作品制作をしている。

本展では、曲線が強調されたフォルムに漆絵や蒔絵、研ぎ破りと いった加飾技法を施した作品を展示。

「ほね#1」2009年、個人蔵

撮影: Takeru KORODA ©Satoshi SOMEYA, courtesy of imura art gallery



棚田 康司 (たなだこうじ)

1968年兵庫県生まれ。1995年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻 専攻修了。古代の仏像に用いられた一木造の技法で少年少女の肖 像を制作する。子どもと大人の境界にいる彼らは、不安定でありな がらも生命体として純粋な美しさがあり、揺るぎない存在として 彫り出されている。

「木の花は八角と星形の台に立つ」2015年、作家蔵

撮影: 宮島径 ©TANADA Koji, Courtesy Mizuma Art Gallery



満田 晴穂 (みつた はるお)

1980年鳥取県生まれ千葉県育ち。2008年東京藝術大学美術研究科 修士課程彫金研究室修了。金属で動物や虫の動きを忠実に再現さ せた置物「自在置物」を、伝統的な構造に基づいて銅や銅合金などの 非鉄金属で制作する。細部にこだわった作品には、生命への畏敬の 念が込められている。

「無為」2016年、作家蔵



山本 太郎 (やまもと たろう)

1974年熊本県生まれ。2000年京都造形芸術大学美術学科日本画 コース卒業。2013年から秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻准 教授。古典的な日本画をベースにしながらも、現代風俗画を融合し 現代の視点で再構築した「ニッポン画」を掲げる。「現代の琳派」と の評価も高い。

「紅白紅白梅図屏風」2014年、個人蔵

©Taro YAMAMOTO, courtesy of imura art gallery

(いずれも部分)

次回展のご案内 「クエイ兄弟ーファントム・ミュージアムー」 2017年6月6日(火)-7月23日(日)



渋谷松濤美術館 [交通案内] 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分区立松濤美術館 [R.南古メトロ・声名画は からの

JR·東京メトロ·東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

THE SHOTO MUSEUM OF ART 〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14

TEL 03-3465-9421 http://shoto-museum.jp

◎関連イベント

「海外から見た日本の現代アートと伝統美術の交流」 4月8日(土)午後2時~

ジョン・ショスタック氏

(本展監修者、ハワイ大学マノア校日本美術史准教授)

- *要入館料 *定員80名 *事前予約の必要はありません。
- *直接、地下2階ホールへお越しください。
- *日本語での講演です。

出品作家によるアーティストトーク

4月16日(日)午後2時~ 木村了子氏、山本太郎氏

4月29日(土·祝)午後2時~ 木村了子氏、棚田康司氏、満田晴穂氏

- *対談および鼎談形式のトークです。
- * 要入館料 * 各同定員40名
- *事前予約の必要はありません。

漆絵あそび-菓子皿に図案をあしらう-

5月6日(土)午前10時15分~、午後2時30分~

染谷聡氏(本展出品作家、漆芸家)によるワークショップ。 漆の菓子皿に漆で絵付けをしましょう。

- *要入館料、別涂材料費 2.000円
- *定員各回15名(応募者多数の場合は抽選)
- * 所要時間2時間30分程度
- *往復はがきによる事前申し込みが必要です。 詳細は美術館HPでご確認ください。
- *ゴム手袋をご用意いたしますが、人によってはかぶれる場合が あることをご了承ください。

当館学芸員によるギャラリートーク

4月22日(土)、5月3日(水·祝)、5月12日(金) 各日午後2時~

*要入館料 *事前予約の必要はありません。

館内建築ツアー

4月7日(金)、14日(金)、21日(金)、28日(金)、 5月5日(金·祝)、12日(金)、19日(金) 各日午後6時~6時30分

*要入館料 *各回定員20名 *事前予約の必要はありません。

